

# 湖底遺跡からみる 自然の猛威

平成25年9月の台風18号による影響は、私たちの生活に大きな被害を与え、その爪痕は今もなお各所に残っています。このよう  
な、自然の影響による痕跡を古代の遺跡から読み解くことができま  
す。特に、琵琶湖の湖底に存在す  
る遺跡は、自然の猛威による影響  
を色濃く残しています。

高島市萩の浜の沖合には「三ツ矢千軒遺跡」と呼ばれる湖底遺跡が存在しますが、昭和2年刊行の『高島郡誌』には次のよう  
な記述がみられます。  
「鯉川は元は大三ツ矢村と称す。古、大三ツ矢、小三ツ矢とて湖辺に二村あり。大三ツ矢は船持問屋もありて、永田村より寅卯にありて葭島より百間許も沖に在りしなり。其村址は水底に石垣一町斗もあり、石橋もあり、旱水の時は五尺許の水底なり。某年今



針江浜遺跡

れ、今の湖岸から50mの沖合に、長さ約80m、幅6〜11mの石塁（石を積み上げて造った防波堤）が確認され、石塁は15世紀後半〜16世紀頃に作られた石仏や五輪塔の石材が使われていると判明しました。また、石塁から南東へ約160mの地点では、垂直に立つ角柱や木杭、立木根、石列が確認されると共に、湖底から湖岸にかけて古代〜近世の土器片が多く発見されました。遺構や遺物の年代にばらつきがありますが、これらの痕跡は大三ツ矢村に伴うものと指摘されています。

の地に移りて鯉川と称す。小三ツ矢は青柳村大字下小川の三ツ矢なり。」とあることから、その昔、大三ツ矢村なる村が湖辺の一部陸化した葭島より180mほど沖合にあり、湖底には石垣、石橋もあるが、冠水時には150cmほど水が漬くことから、ある年に鯉川に移ったことがわかります。  
近年、滋賀県立大学林研究室による水中考古学の調査が実施さ

一方、新旭町針江の湖辺には、「針江浜遺跡」と呼ばれる湖底遺跡があります。現在の湖岸から約100mの沖合に形成された浜堤上に営まれた弥生時代の集落跡ですが、発掘調査により、琵琶湖の水位が上昇した痕跡や、大地震による亀裂と液状化現象の「噴砂跡」が見つかっています。  
稲作を始めて以来、水位の上昇や大地震といった自然の猛威に直面しながらも農耕地として利用され続けたことが明らかになってい

ます。  
これら二つの遺跡が、なぜ琵琶湖の底に眠ることとなったのか、その原因は明らかではありませんが、琵琶湖の水位変化や地震による液状化などが影響していたようです。

今も昔も、自然の猛威は私たちの生活に大きな影響を与えていたことを湖底遺跡は語ります。

## 文化財課

☎(32) 4467

## 編集感

今年のGWは、一歳の末っ子が病気で入院することになり、ずっと病院で過ごしました。本人にはしんどい入院だったと思いますが、普段こんなべったり接することもないので、私としては、よい機会になったとも思います。おかげで、より懐いてくれたような気も？今号の特集は男女共同参画がテーマ。今回のことで協力することの大切さを再認識しました。まだまだ家事などでできていませんが少しずつできることを増やしていければと思います。(S)

広報たかしま

平成26年

6

月号  
No.173

発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課  
〒250-0201 滋賀県高島市新旭町北畑ののの番地

☎0740(25) 8000(代)  
http://www.city.takashima.lg.jp  
✉t:info@city.takashima.lg.jp

